

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成21年11月4日

施設名	高知県立牧野植物園	所管課室	林業振興・環境部 環境共生課
-----	-----------	------	-------------------

1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県牧野記念財団	指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200-6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の収受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 <p>※『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供するため』 (高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)</p>		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><植物園面積> 約17.8ha(うち6haを利用に供用)、駐車場(普通車100台、バス10台) <主要施設> 牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、学習館、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど <開園時間> 午前9時～午後5時 <休園日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 入園料／一般500円(高校生以下無料)、団体400円(20名以上)、年間入園券2,000円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料(1時間当たり)／映像ホール1,400～1,800円、アトリエ実習室500～600円など 撮影料／業として行う写真の撮影:撮影者1人当たり日額1,800円、業として行う映画の撮影:撮影機1台当たり1時間3,600円</p>		
職員体制	常勤職員: 17人 非常勤職員: 37人 合計: 54人 (職員数は平成21年4月1日現在)		

2 収支の状況

単位:千円

		19年度(決算)	20年度(決算)	21年度(予算)
収入	県支出金	255,348	256,359	256,433
	使用料・手数料	36,287	84,212	38,993
	その他			
	収入計 (a)	291,635	340,571	295,426
支出	事業費	15,414	16,769	19,423
	管理運営費	109,770	135,408	114,985
	人件費	156,345	163,826	161,018
	その他			
	支出計 (b)	281,529	316,003	295,426

3 利用状況

	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	121,215	208,520	135,000
②利用者意見等の反映	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <p>・一般の来園者については、窓口や各展示会場にアンケートボックスやノートを置いているほか、講演会やイベント・講習会の際にもアンケートを行い、利用者ニーズの把握に努めている。</p> <p>・頂いたご意見やアンケート結果については、取りまとめを行い、園内で回覧後、対応を話し合いにより決めている。</p> <p>○ その他</p> <p>・不十分であるのご意見が多かった園内の案内サインや見ごろの花の情報を掲載する看板等の設置などを行い、案内の改善に努めた。</p> <p>・特別展・企画展に関しては、過去のアンケート調査を基にして意向反映を図り、四季折々の“植物文化”の展示に努めている。</p> <p>・ご協力いただいたボランティアの方にも、ご意見を頂き、今後の管理運営に生かすことができるよう努めている。</p>		
③その他特記事項	<p>開園50周年記念事業をはじめとする、積極的なイベント実施などにより、年間入園者数が開園以来初の20万人を突破したことに加え、施設利用及び写真撮影件数は526件と、前年度(512件)を上回る利用がなされており、植物園の利用促進について高い成果を上げている。</p>		

4 平成20年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、危機管理体制の確立、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われていると認められる。
②利用者サービスの維持向上	<p>・広報誌(紙)等の作成・配布のほか、報道機関・情報雑誌等を活用し、植物園の情報提供、広報、広告を効果的に行っている。</p> <p>・牧野博士や植物に関わる特別展・企画展、各種イベントは、竹林寺や五台山公園との連携など、いずれも魅力的な内容となっているほか、展示方法にも工夫が見られ、来園者の好評を得ている。</p> <p>・植物教室や体験教室をはじめ、植物園を児童生徒の総合学習の場として活用するなど、一般の方から子どもまで幅広い年齢層に対して充実した普及教育活動を行っている。</p> <p>・これらの活動により入園者数の増加に結び付けることに成功しており、高く評価できる。</p>
③利用実績	<p>・園内での研究をはじめ、海外での調査や、大学・県の研究機関・企業等との共同研究等に加え、地域振興につながる研究にも精力的に取り組んでおり、研究型植物園としての機能強化が進んでいる。</p> <p>・50周年記念庭園などの園地管理、長江圃場における植物の栽培・保存増殖作業などに加え、採集した標本資料の適切な保管・管理が行われており、植物管理についても熱心な取り組みが続けられている。</p> <p>・高知県植物誌の編纂事業については、平成20年度内に刊行され、事業目標が達成された。</p>
④収支の状況	<p>・利用料金収入は入園者数が20万人を突破したこともあり、増加した。研究部門における外部資金の導入など収入増加に向けた取り組みや経費節減への努力を引き続き行っており、成果が上がっている。</p> <p>・50周年記念庭園等、管理エリアの拡大による管理費用の増加への対応が課題となると思われる。</p>
総合評価	<p>・植物研究、植物管理、広報・展示、普及教育、施設管理など、多岐にわたる植物園業務の各分野において精力的な取り組みを行っており、高く評価できる。</p> <p>・開園50周年記念事業をはじめとする、積極的なイベント実施などにより、年間入園者数が開園以来初の20万人を突破したことに加え、園内案内等のボランティアの活用などが図られたことから、植物園の利用促進の面及び地域との連携の面で、なお高い評価に値する。</p> <p>・待遇面の改善等、組織の効果的な運用のために改革を実行に移しており評価できる。今後、現在の人員体制の中で、必要な知識・技術の教授の確保や、職員の満足度の把握・フィードバック等、成果を持続していくための取り組みを続けていく必要があると思われる。</p>

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容とおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの